

平成二十九年年度

## 大阪市立美術館インターンシップ活動報告

### 本年度の活動について

森橋 なつみ

大阪市立美術館では、毎年、将来学芸員をはじめ美術館に関わる仕事に就くことを希望している方を対象に、人材の育成と当館の活動をより広く理解していただくことを目的として、インターンシップ参加者(研修生)を若干名受け入れている。対象は大学院在学中もしくは修了者で、美術史や美術・文化に関連する分野を専攻する者、または同程度の能力・経験を有する者としており、毎年、受け入れを担当する学芸員によって内容は多少変化するが、おおむね展覧会準備などの基本的な学芸業務に補佐として携わっていただいている。

本年度は弓野(中国書法)・森橋(中国絵画)が担当し、中国書画を中心とした内容で募集したところ、波瀬山祥子氏(大阪大学大学院)、永谷かのこ氏(同上)の二名に参加していただくことになった。両氏は学芸員としての仕事は勿論、大学院で江戸絵画を専攻する中で、中国書画にも関心を向けられている。

五月より毎月数回程度来館していただきながら、館蔵・寄託品によつて企画しているコレクション展の展示・撤収作業や阿部コレクションをはじめとした中国書画の基礎調査・写真撮影などを補佐して、作品の取り扱いや展示の手法など、学芸業務の基本となる仕事を経験してもらい、少しずつ慣れてきたところでコレクション展をひとつ、企画から担当していただいた。「書画にあそぶ」(平成二十九年十月十四日～十一月二十六日)として開催した展覧会では、作品を掛け並べながら二氏の目を通して選定をおこない(担当学芸員の思惑も少々含みながら)、タイトル決定、リスト作成、解説執筆などの準備に始まり、当日の展示作業から閉幕後の撤収に至るまで、一通り主体的に取り仕切っていただいた。両氏とも大変熱心に取り組み、またひとつひとつの作業を楽しむゆとりも持っていて、とても良い企画となったと思う。展覧会後は、次年度の展示に向けた基本調査などに参加していただいている。

この前文につづき、両氏の所感をそれぞれ掲載し、若干の記録写真と「書画にあそぶ」展のリストを添えて本事業の報告としたい。一年という期間は思いのほか短いもので、息の合ってきた頃に終了してし

まうのは、幾分名残惜しい。本インターシップ制度は美術館と参加者の両者にとって有意義な活動となるべくあるが、今年度の活動が両氏の前途に多少なり実りあるものとして活きることを切に願う。

(大阪市立美術館学芸員)

## 書画にあそんだ十一ヶ月

波瀬山 祥子

インターンを終えて、昨年より成長した、というより作品を見ることを純粹に楽しめるようになった気がする。中国美術を学ぶ機会が大学では少なかつたため、毎回知らない画家や作品に出会うのが新鮮で勉強になった。作品を数十センチの距離で見ると、巻いたり広げたり、運んだり、という経験の積み重ねで、作品を身近に感じられるようになっていった。積極的に調査に参加させて頂いたことで、作品に対する敬意と責任感を培うこともできた。

秋のコレクション展「書画にあそぶ」は、インターン生メインでやらせて頂いた。作品を限られた空間にどう展示すればよいか、学芸員さんにアドバイスをもらいながら考えを練った。また、中国美術に馴染みがない人にも親しみを持つてもらいたいと、キャプションにはキャッチコピーを付けることにし、永谷さんと「ちよつとふざけ過ぎかな」などと、奔放に意見を言い合うのが楽しかった。今振り返れば、鑑賞者に見やすい展示を、と言いつつ自分たちが楽しんでいただけなのかもしれない……。だが、展示室には、じっくり見てくれる貴重な人の姿もあり、後日「よかったよ」という感想を頂いたときは本当にうれしかった。正直、展示室は古くて見や

すい環境ではないが、ちよつとした工夫で面白い展示が出来る。何事もあきらめないことが肝心だと思った。

四月から運良く職を得て、学芸員として働くことになった。これまでの経験を活かして、作品整理から展示解説まで精一杯頑張ろうと思う。困難なことも多いと思うが、自分自身が仕事を楽しむということを大切にしていきたい。

(大阪大学大学院)

## インターシップを通して

永谷 かのこ

インターシップでは、弓野学芸課長、森橋学芸員のご指導の下、阿部コレクションを中心とする中国書画の調査、コレクション展の企画、展示作業等に携わった。日本の近世絵画を学ぶ私にとって、日本に大きな影響を与えた中国の書画に触れながら、さらに学芸員という仕事の一端に関われたこの十一か月間は本当に実り多い時間だった。

何より、たくさんさんの素晴らしい作品を間近で目にできたことは、何にも代えがたい貴重な体験であった。特に印象に残っているのは、秋のコレクション展「書画にあそぶ」に関わる一連の作業である。ここでは展示タイトルの決定から作品の選定、解説執筆、展示作業撤収作業まで行った。作品の選定と配置の決定では、実際に作品を並べたときのバランスや印象がうまく想像できず苦戦した。また、解説の執筆では、誰に・何を・どのように見てほしいのか、という

ことを短い文章にまとめるのが難しかった。しかし、展示の完成形を思い描きながらの作業はどれも楽しく、時間を忘れて取り組んだ。展示作業においては、作品の配置はもちろん、作品の高さ、隣り合う作品とのバランス、照明の色、明るさ、キャプションの配置など、些細に思える様々なことが展覧会の雰囲気や見易さなどに関わる重要な要素であると実感した。

今回、美術館における様々な仕事を実際に目にし、体験することで、一來館者として美術館を訪れるだけでは決して知りえなかった多くのことを学ぶことができた。十一か月間、本当にありがとうございました。

(大阪大学大学院)



協力しながら展示作業にあたる波瀬山氏(奥)と永谷氏



「書画にあそぶ」展キャプション

基本的な情報を載せたキャプションのほかに、鑑賞の助けとなるような親しみやすい内容の補助解説を添えた。



「書画にあそぶ」展示会場風景

秋の展示であることから、中心に華岳「秋声賦意図」を配し、そのとなりに文嘉「琵琶行図」を掛けるなど作品の世界観や外観の調和を図り、来館者が楽しめるよう工夫した。

コレクション展  
書画にあそぶ

2017年10月14日(土)-11月26日(日) 大阪市立美術館

◎=重要文化財

作者	作品名	時代	所蔵
<b>第一室</b>			
方從義 (1302-1393頃)	太白瀧湫図	元・至正20年(1360)	本館蔵(阿部コレクション)
沈周 (1427-1509)	幽居図	明・天順8年(1464)	本館蔵(阿部コレクション)
金湜 (生卒年不詳)	双鉤竹図	明・15世紀	本館蔵(阿部コレクション)
文嘉 (1501-1582)	琵琶行図	明・隆慶3年(1569)	本館蔵(阿部コレクション)
徐渭 (1521-1593)	拝孝陵詩意図	明・16世紀	本館蔵(阿部コレクション)
邢侗 (1551-1612)	文石図	明・16-17世紀	本館蔵(阿部コレクション)
文從簡 (1574-1648)	江山平遠図	明・万曆42年(1614)	本館蔵(阿部コレクション)
邵弥 (1592頃-1642)	雲山平遠図	明・崇禎13年(1640)	本館蔵(阿部コレクション)
劉度 (生卒年不詳)	山水図(明人書画合璧冊のうち)	明末清初・17世紀	本館蔵(阿部コレクション)
楊文驄 (1597-1645)	林泉清集図冊(うち二面)	明・崇禎11年(1638)	本館蔵(阿部コレクション)
龔賢 (1618頃-1689)	孤亭図(書画合璧冊のうち)	清・康熙22年(1683)	本館蔵(阿部コレクション)
顧大申 (生卒年不詳)	老松飛瀑図	清・康熙3年(1664)	本館蔵(阿部コレクション)
高其佩 (1660-1734)	花鳥画冊(うち二面)	清・康熙25年(1686)	本館蔵
華岳 (1682-1756)	秋声賦意図	清・乾隆20年(1755)	本館蔵(阿部コレクション)
李鱣 (1686-1762)	墨竹図	清・18世紀	本館蔵
蔡嘉 (1686-1779)	古木寒鴉図	清・乾隆21年(1756)	本館蔵(阿部コレクション)
錢杜 (1763-1844)	虞山草堂步月詩意図	清・嘉慶18年(1813)	本館蔵(阿部コレクション)
張熊 (1803-1886)	花卉画冊(うち二面)	清・咸豐元年(1851)	本館蔵
沈焯 (生卒年不詳)	観蓮図	清・道光21年(1841)	本館蔵(阿部コレクション)
<b>第二室</b>			
燕文貴 (967-1044)	江山楼観図	北宋・10-11世紀	本館蔵(阿部コレクション)
郭忠恕 (? -977) 款	明皇避暑宮図	元・14世紀	本館蔵(阿部コレクション)
趙佶 (徽宗、1082-1135) 款	晴麓横雲図		本館蔵(阿部コレクション)
作者未詳	秋江漁艇図	北宋末~南宋初期・12世紀	本館蔵(阿部コレクション)
米友仁 (1072-1151)	遠岫晴雲図	南宋・紹興4年(1134)	本館蔵(阿部コレクション)
伝 銭選 (1239-1301)	品茶図	明・15-16世紀	本館蔵(阿部コレクション)
戴進 (1388-1462)	松岩蕭寺図	明・15世紀	本館蔵(阿部コレクション)
高其佩 (1660-1734)	天保九如图	清・康熙47年(1708)	本館蔵(阿部コレクション)
黄慎 (1687-1770後)	仙子漁者図	清・18世紀	本館蔵(阿部コレクション)
王翬 (1632-1717)	仿李營丘江山雪霽図	清・17-18世紀	本館蔵(阿部コレクション)
	元禎墓誌	北魏・太和20年(496)	本館蔵(師古齋コレクション)
鄭道昭 (? -516)	論經書詩	北魏・永平4年(511)	本館蔵(師古齋コレクション)
	高慶碑	北魏・6世紀	本館蔵(師古齋コレクション)
	蘇慈墓誌	隋・仁寿3年(603)	本館蔵(師古齋コレクション)
	栖霞道場舍利塔碑	隋・仁寿4年(604)	本館蔵(師古齋コレクション)
褚遂良 (596-658)	雁塔聖教序	唐・永徽4年(653)	本館蔵(師古齋コレクション)
顔真卿 (709-785)	顔氏家廟碑	唐・建中元年(780)	本館蔵(師古齋コレクション)
◎ 米芾 (1051-1107)	草書四帖	北宋・紹聖4年~元符2年(1097-1099)	本館蔵(武居巧氏寄贈)
米芾 (1051-1107)	元日帖(三希堂法帖)	北宋・紹聖4年~元符2年(1097-1099)	本館蔵(松永陽石氏寄贈)